



株式会社 **トクヤマ**

2010年3月期

決算説明会

2010年5月13日

C O N T E N T S

説 明 内 容

- 1 09年度決算説明
- 2 10年度業績予想
- 3 トピックス
- 4 補足資料

1.決算概要

2.決算要因分析

前期比

(参考)セグメント別売上高／営業利益

予想比

1. 決算概要

(億円)

	09年度実績		08年度実績		差異			
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
収益状況					金額	%	金額	%
売上高	2,731	1,879	3,009	2,026	▲278	-9	▲147	-7
営業利益	164	148	227	223	▲62	-28	▲75	-34
経常利益	153	127	203	199	▲50	-25	▲71	-36
当期純利益	74	55	▲55	▲57	+130	-	+113	-

	10年3月末		09年3月末		増減	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
資産状況						
総資産	4,528	3,916	4,036	3,486	+492	+430
純資産	2,436	2,201	1,897	1,685	+538	+515
自己資本比率	52.4%	56.2%	45.5%	48.3%	+6.9ポイント	+7.9ポイント

1. 決算概要

営業外損益

(億円)

		09年度	08年度	差損益	備考
営業外収益	受取利息・配当金	6	8	▲1	
	その他	27	17	+10	持分法による投資利益 +7 為替差益 +2
	計	33	25	+8	
営業外費用	支払利息・社債利息	17	14	▲3	
	その他	27	34	+7	設備解体引当金の減 +3
	計	44	49	+4	
営業外損益		▲11	▲23	+12	

1. 決算概要

特別損益

(億円)

	09年度	08年度	差損益	備考
特別利益	22	12	+9	<ul style="list-style-type: none"> ・投資有価証券売却益 +14 ・関係会社株式売却益 ▲5
特別損失	46	288	+241	<ul style="list-style-type: none"> ・製品補償引当金繰入減(樹脂サッシ改修)+190 ・樹脂サッシ関連資産減損損失減 +20 ・基幹システム再構築計画の変更費用 +27
特別損益	▲24	▲275	+251	

2.決算要因分析

①当期の事業環境

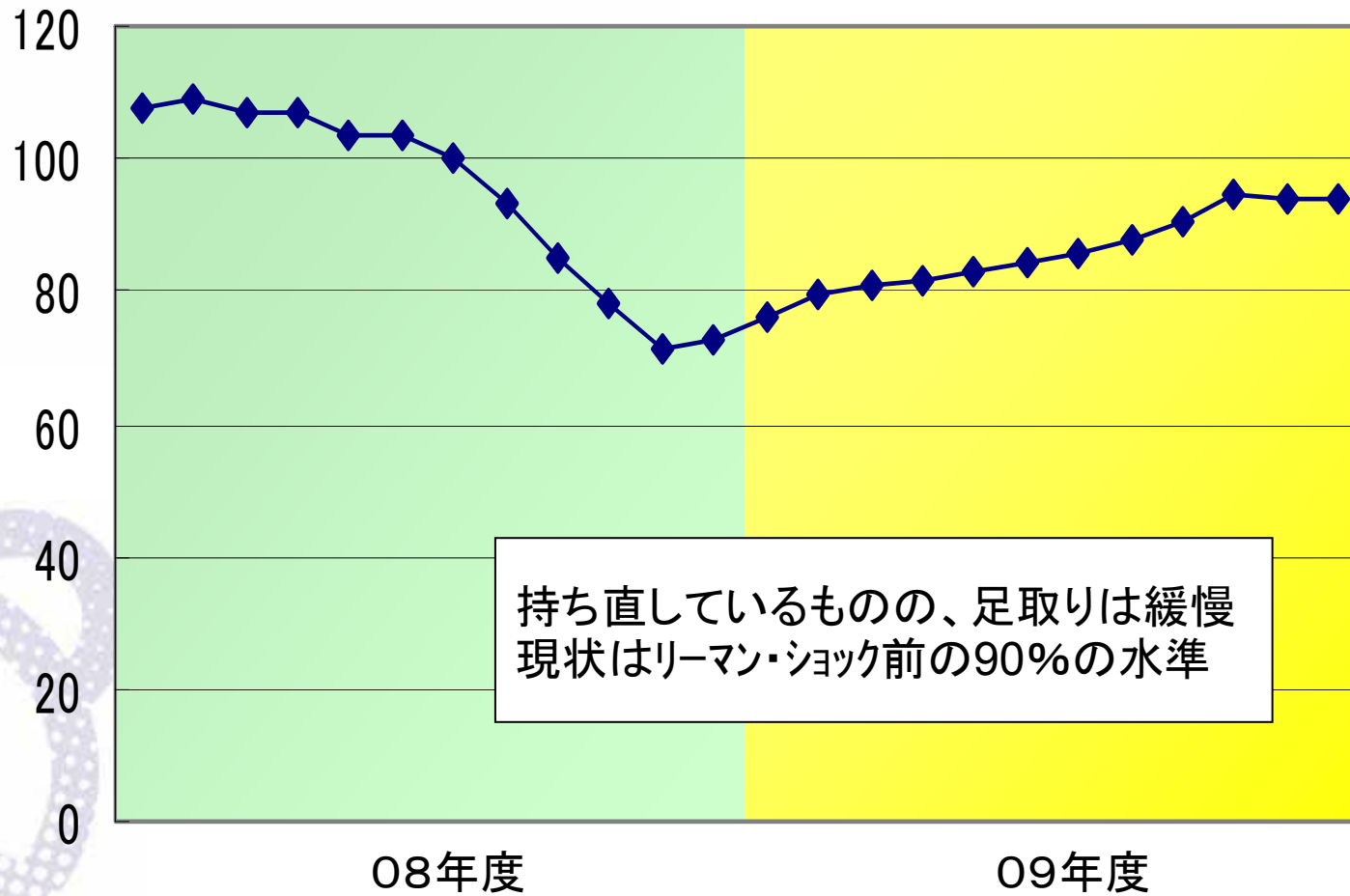
②当期決算のポイント

③セグメント別 売上高／営業利益
前期比

① 当期の事業環境

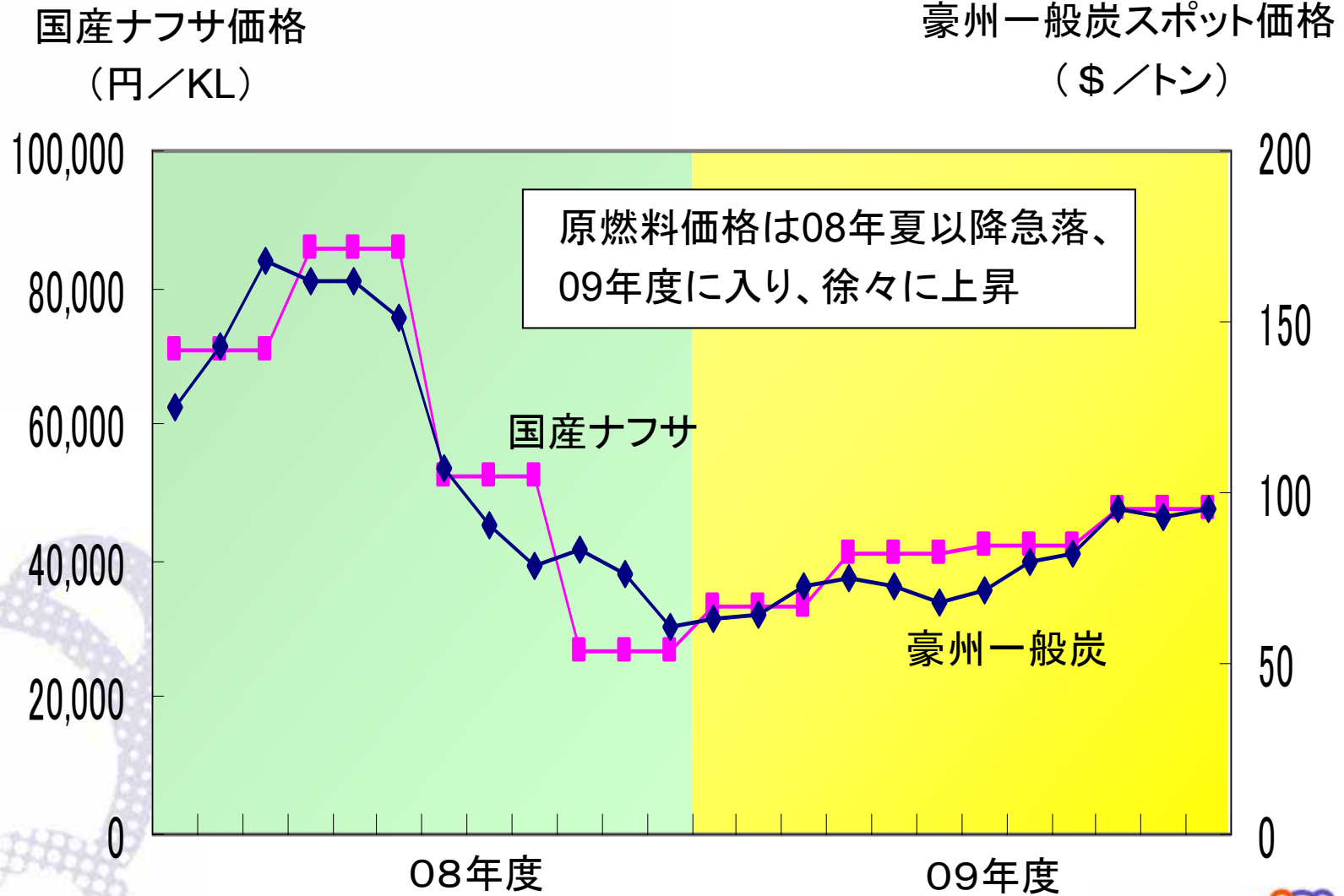
鉱工業生産指数(一)

2005年度=100



持ち直しているものの、足取りは緩慢
現状はリーマン・ショック前の90%の水準

① 当期の事業環境



② 当期決算のポイント

前 期 比

販売数量

特殊品で増、化成品・セメントで減

多結晶シリコンは新プラント稼働と稼働率向上による増産効果で大幅増
セメントは需要低迷により大幅な落込み
化成品も総じて販売数量減

販売価格

セメント、苛性ソーダは維持、特殊品、石化製品は下落

多結晶シリコンは契約価格の下落に加え、円高の影響や
前期の特別販売が無くなったことにより大幅下落

原燃料コスト

価格下落、使用量減少で120億円の削減効果(単体)

③ セグメント別売上高／営業利益

前 期 比

(億円)

	09年度		08年度		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	936	61	1,126	12	▲190	▲17	+48	+389
トクヤマ	730	54	866	10	▲136	—	+44	—
Gr.会社(連結修正も含む)	206	6	260	2	▲53	—	+4	—
特殊品	1,063	144	1,028	263	+34	+3	▲118	▲45
トクヤマ	803	126	759	254	+44	—	▲127	—
Gr.会社(連結修正も含む)	259	18	269	8	▲9	—	+9	—
セメント建材・他	731	0	854	▲5	▲122	▲14	+5	—
トクヤマ	344	8	400	1	▲55	—	+6	—
Gr.会社(連結修正も含む)	386	▲7	454	▲7	▲67	—	0	—
計	2,731	206	3,009	270	▲278	▲9	▲64	▲24
セグメント間消去・全社費用	—	▲41	—	▲43	—	—	+1	—
連結決算	2,731	164	3,009	227	▲278	▲9	▲62	▲28

(参考)セグメント別売上高／営業利益

予 想 比

(億円)

	09実績		09予想		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	936	61	935	50	+1	0	+11	+23
トクヤマ	730	54	720	45	+10	—	+9	—
Gr.会社(連結修正も含む)	206	6	215	5	▲8	—	+1	—
特殊品	1,063	144	1,045	145	+18	+2	▲0	0
トクヤマ	803	126	780	130	+23	—	▲3	—
Gr.会社(連結修正も含む)	259	18	265	15	▲5	—	+3	—
セメント建材・他	731	0	720	0	+11	+2	+0	—
トクヤマ	344	8	350	10	▲5	—	▲1	—
Gr.会社(連結修正も含む)	386	▲7	370	▲10	+16	—	+2	—
計	2,731	206	2,700	195	+31	+1	+11	+6
セグメント間消去・全社費用	—	▲41	—	▲45	—	—	+3	—
連結決算	2,731	164	2,700	150	+31	+1	+14	+10

* 09予想 ; 2009年11月6日公表値

2 10年度業績予想

- 1.セグメント変更
- 2.今後の事業環境
- 3.業績予想
- 4.業績推移

1.セグメント変更

旧セグメント

(億円)

	09年度	
	売上高	営業利益
化学品	936	61
特殊品	1,063	144
セメント建材・ 他	731	0
セグメント間 消去・全社費用		▲41
計	2,731	164

新セグメント

(億円)

	09年度	
	売上高	営業利益
化学品	725	30
特殊品	886	142
セメント	646	15
機能部材	420	16
その他	363	27
セグメント間 消去・全社費用	▲310	▲67
計	2,731	164

* 各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

2. 今後の事業環境

化学品

- ◆ ナフサ価格、石炭価格の上昇を織込む

特殊品

- ◆ 半導体市場は回復途中、太陽電池市場は不透明
 - ・ 多結晶シリコンの太陽電池向け価格は弱含みも、販売数量は増加を見込む

セメント

- ◆ 更なる内需の減少を織込む
 - ・ 4,270万トン→4,000万トン程度へ
 - ・ キルンの1基休止など合理化策の一部織込み、更なる上積みを目指す

機能部材

- ◆ グループ経営強化で、厳しい事業環境に対応
 - ・ エクセルシャノングループは着実な改修で信頼回復に努める

3.業績予想

①業績予想の前提

②業績予想

前期比

③セグメント別業績予想

前期比

①業績予想の前提

	10年度 会社予想	09／下 実績	09／上 実績
国産ナフサ価格 (円／KL)	51,000	45,100	37,250
為替 (円／\$)	95	90	95

②業績予想

前 期 比

(億円)

	10予想		09実績		差 異			
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
収益状況					金額	%	金額	%
売上高	2,860	1,920	2,731	1,879	+128	+5	+40	+2
営業利益	140	110	164	148	▲24	▲15	▲38	▲26
経常利益	130	100	153	127	▲23	▲15	▲27	▲22
当期純利益	75	60	74	55	+0	+1	+4	+9

③ セグメント別業績予想

前 期 比
(億円)

	10予想		09実績		増 減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	790	20	725	30	+64	▲10
特殊品	930	145	886	142	+43	+2
セメント	635	5	646	15	▲11	▲10
機能部材	450	20	420	16	+29	+3
その他	410	25	363	27	+46	▲2
計	3,215	215	3,042	232	+172	▲17
セグメント間消去・全社費用	▲355	▲75	▲310	▲67	▲44	▲7
連結決算	2,860	140	2,731	164	+128	▲24

* 各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

4.業績推移

①四半期毎の売上高／営業利益推移

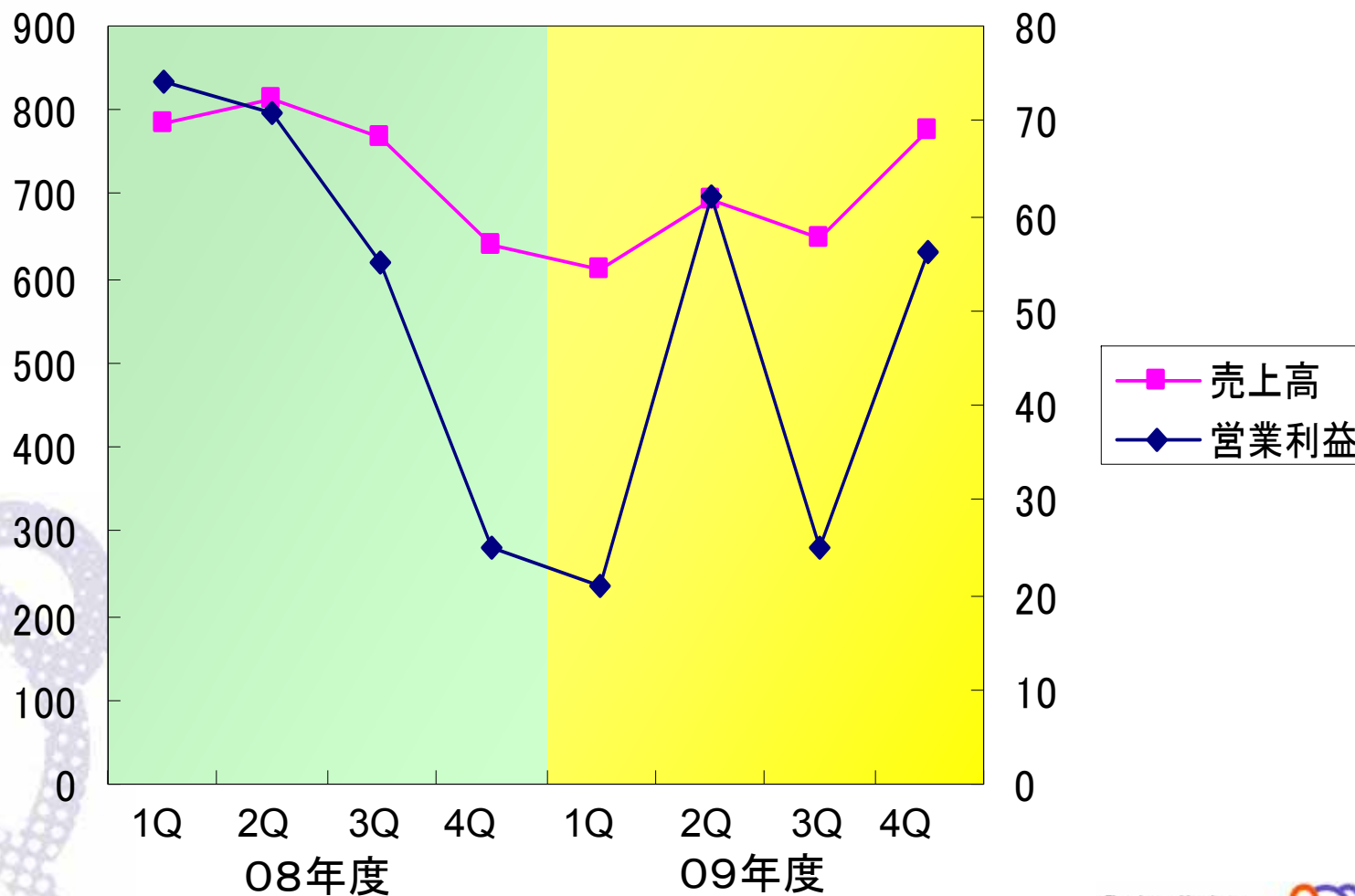
②ここ10年間の業績推移

①四半期毎の売上高／営業利益推移

連 結

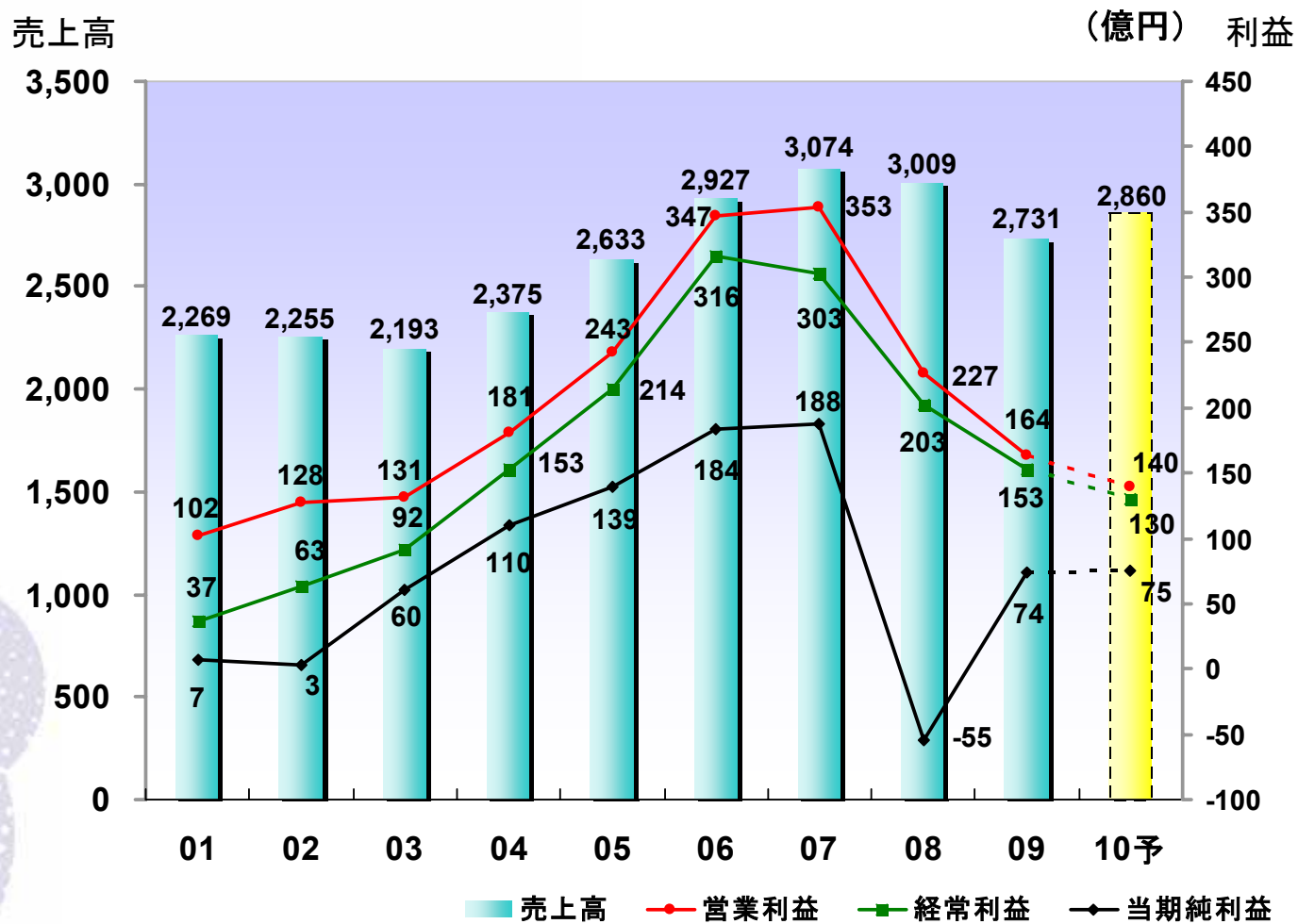
売上高(億円)

営業利益(億円)



②ここ10年間の業績推移

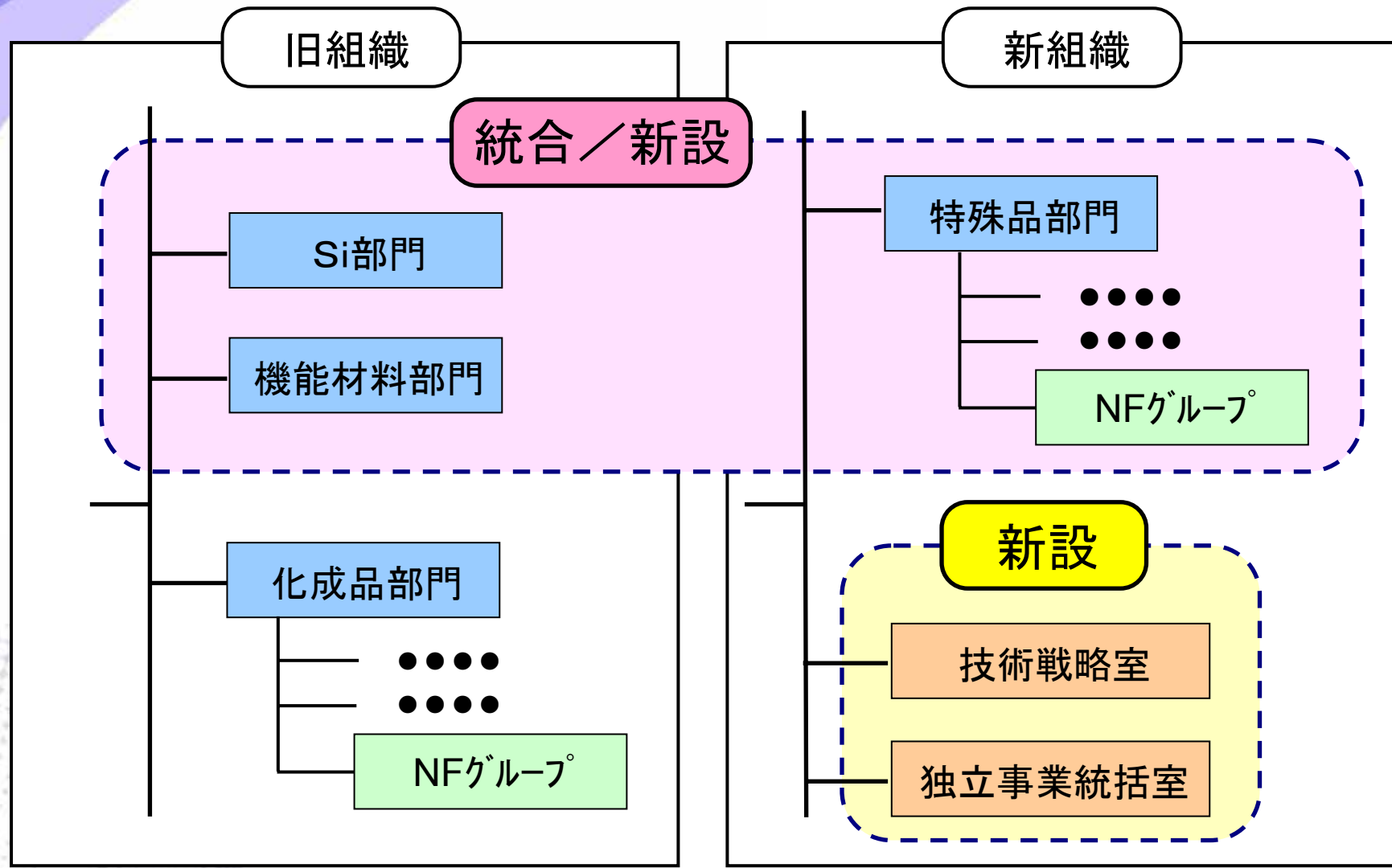
連 結



3 トピックス

1. 組織改正
2. 多結晶シリコンの事業展開
3. 燃料電池用電解質材料の開発
4. セメント事業構造改革
5. 地球温暖化対策への取組み
6. 周南バルクターミナル進捗
7. 樹脂サッシ問題

1.組織改正



1.組織改正

組織改正のポイント

特殊品部門の新設

- ◆ Si部門と機能材料部門を統合し、特殊品部門とする
- ◆ 半導体・電子材料関連事業を特殊品部門で一元管理
- ◆ NFグループを化成品部門から特殊品部門へ移管

技術戦略室の新設

- ◆ 技術に関する、部門間の調整機能、コーディネート機能を強化
- ◆ 生産技術や人財を部門横断的に活用できる組織とし、効率的な事業運営、人財育成の強化を図る

独立事業統括室の新設

- ◆ グループ経営の強化を図る
- ◆ コーポレートガバナンスの強化、CSR体制の強化を推進

2. 多結晶シリコンの事業展開

① マレーシア計画の進捗

- ◆ サラワク州クチンにTMSB現地事務所開設、3名駐在
- ◆ マレーシア人留学生9名を採用



現地事務所が入居しているビル



今年度採用した従業員

※TMSB : TOKUYAMA MALAYSIA SDN BHD.の略

2. 多結晶シリコンの事業展開

② VLD実証試験の進捗

- ◆ 試験設備での最終実証試験を終了
 - ・ 目的とする反応効率で、多結晶シリコン製造技術を確立
 - ・ 今後は事業性評価に注力



VLD実証プラント

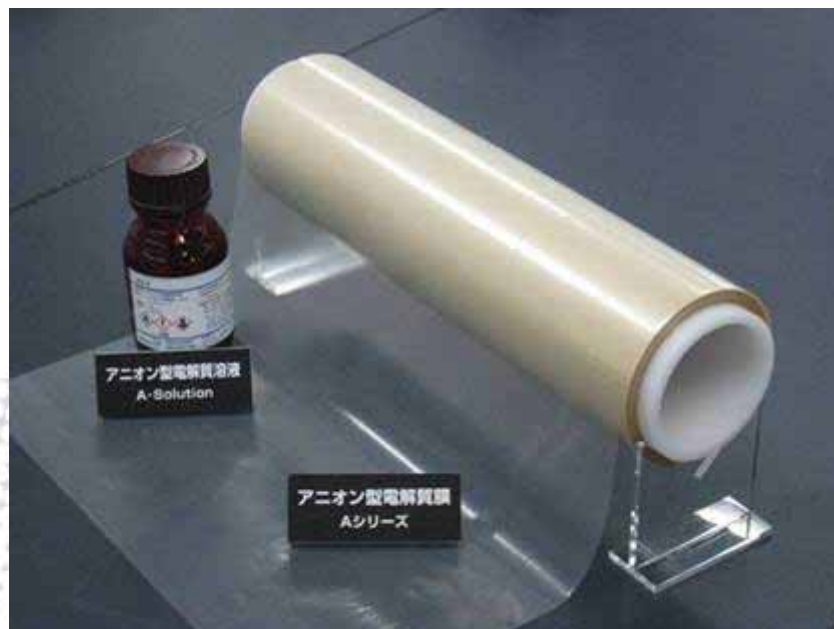


VLDで製造した多結晶シリコン

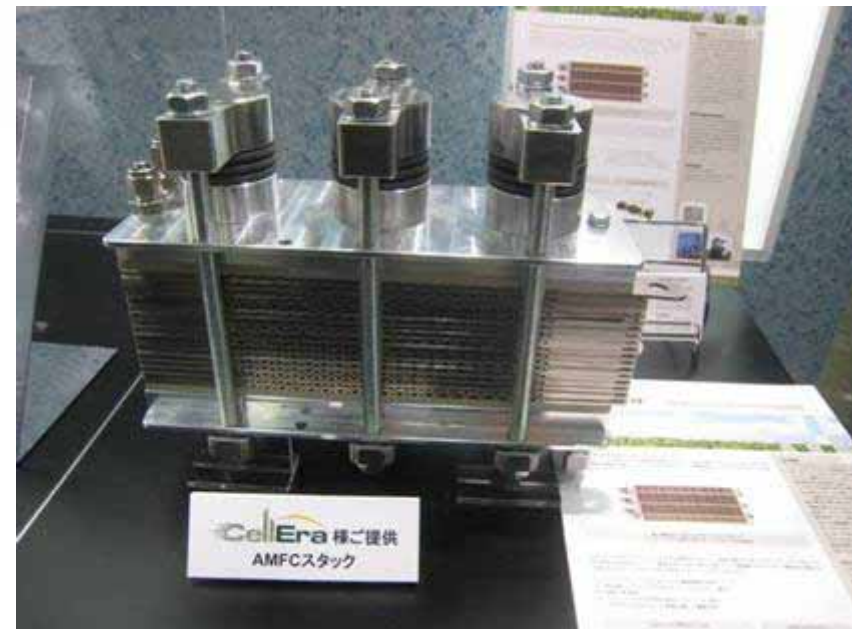
3.燃料電池用電解質材料の開発

アニオン型電解質膜開発の進捗

- ◆アニオン型で最高出力(465mW/cm²)を達成(非貴金属触媒使用)
 - ・水素を燃料とした燃料電池スタックが、実証試験段階へ



アニオン型電解質膜と電解質溶液



当社膜を使用した燃料電池スタック

4.セメント事業構造改革

セメント部門の事業構造改革に着手

- ◆生産体制の見直し
 - ・4号キルン休止（機能維持のための保守運転は実施）
- ◆販売体制の見直し
 - ・2010年3月、南九州営業所廃止。営業所はゼロとなる
- ◆物流の見直し
 - ・2010年下期、セメントタンカー1隻削減
 - ・SS削減:45カ所→31カ所に削減済。更に削減検討進める
- ◆人員削減
 - ・部門全体で約2割程度の人員を削減(2010年度完了予定)

⇒2012年までに約30億円の固定費削減を目指す

5.地球温暖化対策への取組み

椰子種子殻(Palm Kernel Shell)の燃焼試験を終了

- ◆中央発電所(7号)で石炭代替燃料(PKS)の燃焼試験を実施
- ◆2010年度代替燃料として10,000トン以上の利用を計画
PKS 10,000トン/年で、CO₂を18,000トン/年削減



中央発電所7号ボイラーPKS投入設備



PKS燃料

6.周南バルクターミナルの進捗

周南バルクターミナル1期工事7月末完了予定

- ◆ベルコン等の荷揚げ設備の試運用開始
- ◆2012年4月からの全面運用開始を目指し、工事進行中

試運転中の荷揚げ設備



一部運用開始した
荷揚げ設備と貯炭場

工事が進む周南バルクターミナル

7.樹脂サッシ問題

特定・認定取得・改修の進捗状況

対象物件の特定状況

- ◆対象物件数 4,183棟の99%を特定(残り24件)
- ◆残りの大半は北海道の古い物件

大臣認定の取得状況

- ◆大臣認定48件を取得(4/15時点)
- ◆性能評価審査中18件

改修の進捗状況

- ◆認定取得が遅れているため若干遅延
- ◆エクセルシャノン新規認定品での改修が本格化

再発防止策の実施状況

- ◆短期的対応策(1年以内完了予定)をすべて実施完了



1.主要指標①

前期比

		09年度		08年度		増減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	265	154	525	477	▲259	▲322
減価償却実施額	億円	376	334	229	184	+147	+149
研究開発費	億円	118	100	118	97	0	+2
金融収支	億円	▲11	0	▲6	5	▲4	▲6

1.主要指標②

前 期 末 比

		10年3月末		09年3月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	1,000	794	959	808	+41	▲13
期末人員	人	5,444	2,172	5,295	2,161	+149	+11

1. 主要指標③

予想の前期比

(億円)

		10年度予想		09年度実績		増減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	474	280	360	294	+114	▲14
	実績(計上)	—	—	265	154	—	—
減価償却費		309	265	376	334	▲67	▲69
研究開発費		123	104	118	100	+5	+4